

日本の色 ● 左から黒、柿、萌黄：
歌舞伎にちなむこの3色は「正式幕
(しょうしきまく=歌舞伎で使われる代
表的な引き幕)」の色である。

アドバイス 超初心者も歌舞伎に入門

織田氏による「歌舞伎を知るためのお薦めの方法」は、気に入った役者を1人見つけ、彼を見続けること。その役者の出演する演目を見るだけでも奥深い歌舞伎の世界を体験できる。参考までに代表的な4人の役者を挙げる。日本俳優協会のサイトなどでお気に入りの1人を探してほしい。



市川團十郎：本名堀越夏俊。11世團十郎の長男。6世新之助、10世海老蔵を経て、85年12世を襲名。美貌と明るい芸風で、活躍。写真/時事通信
市川海老蔵：本名堀越孝俊。團十郎(左写真)の長男。7世新之助を経て、2004年、11世を襲名。ミュージカル、テレビドラマと幅広く活躍中。写真/共同通信
坂東玉三郎：本名守田親俊。1964年5世を襲名。美貌の若女形で人気を集め、新派舞台にも女形として出演。映画の監督にも挑戦。写真/共同通信
中村吉右衛門：本名波野辰次郎。1966年、中村萬之助から2世を襲名。次ページの9世松本幸四郎は兄である。写真/©松竹株式会社

アドバイス 代表的な演目から歌舞伎を味わってみる

歌舞伎の演目は星の数ほどあるが、有名な演目からスタートしてはどうだろう。下記に代表的な演目を紹介する。

【時代物】貴族や武家を題材にした江戸時代の時代劇

義経千本桜・菅原伝授手習鑑・鳴神・妹背山婦女庭訓・伽羅先代萩・矢の根・加賀見山田錦絵など

【世話物】町人や商人を題材にした江戸時代の現代劇

天衣紛上野初花・夏祭浪花鑑・女殺油地獄・東海道四谷怪談・心中天網島・三人吉三白浪など



仮名手本忠臣蔵：赤穂浪士の仇討ちに取材した古今の戯曲中の代表作。自由な脚色で、作劇、人物描写ともに優れている。(左端役者は故17世市村羽左衛門)



助六由縁江戸桜：17、18世紀頃、町人英屋助六と島原の遊女揚巻の心中事件が典拠になっている。(役者は左が7世尾上菊五郎、右が7世中村芝翫)



京鹿子娘道成寺：平家の臣の妹が主人の若殿に恋して兄に殺され、白拍子に化して現れるというのがもともとの筋。(右端役者は7世尾上菊五郎)写真3点とも/©松竹株式会社

—— 初秋は明るい色で ——

軽く、しわになりにくく、暖かさばきの大島紬はちょっとしたお出かけに便利な着物だ。初秋なので明るい色を基調にした。つづれ織りという高級感のある帯で緊張感を演出している。(渡辺幸裕)

着物はちりめん地に、季節を選ばない小花の刺繍がある、さりげない雲田気の訪問着。外出や観劇、仕事相手との会合などに選んでいる。(小田舞子=本誌編集)



着物で取材
「日本かぶれ」では原則的に取材の際、着物を着ます。銀座もとじ店主、泉二弘明氏のアドバイスで、毎回のテーマや季節に合わせてコーディネートします。あなたの着物ライフの参考にしてください。

「役者」「演目」、見どころは様々だ



Koji Orita
織田紘二(おりた・こうじ)氏
1945年生まれ。67年国学院大学文学部日本文学科を卒業し、国立劇場芸能部制作室に入室。以来30年、歌舞伎や古典芸能の制作、演出に携わる。2003年国立劇場芸能部部長。海外の大学で歌舞伎の授業をするなど、海外経験も豊富。

やまと
日のかぶれ

歌舞伎を気軽に楽しむ

連載第四回 華麗な世界を初体験

日本を知る新連載4回目は、伝統芸能の代名詞「歌舞伎」を学ぶ。



歌舞伎座
この中には素晴らしいものが山ほど詰まっている。

渡辺幸裕(案内人)◆文
text by Yukihiko Watanabe

寺尾豊◆写真
photographs by Yusaku Terao

女性に始まる400年の歴史

国立劇場芸能部部長を務め、海外で歌舞伎を語る経験も豊富な織田紘二氏に聞いた。彼が肌で感じてきたこと、それは「外国人が関心を抱く日本文化の双璧は相撲と歌舞伎だ」ということだ。

歌舞伎を「動く浮世絵」と形容した外国人もいる。教養層の中には歌舞伎に対して驚くほどの知識を持つ人も少なくない。それだけに日本人である私たちが歌舞伎について質問されて答えられないというのはいかにも恥ずかしい。逆に「歌舞伎というのはですね」と説明できたら、「おおつ」と評価されるだろう。そこから始まる素敵な関係を想像してみしてほしい。

昨年は出雲の阿国(おくに)が京都でかぶき踊りを始めて400年目であった。歌舞伎は最初、男装した女性による芸能で、言ってみれば宝塚のようなものであった。それを幕府が禁じたため、美少年による踊りに変遷し、それもまた禁止されて現在の男性のみによる演劇という形になった。この経緯くらいは最低限知っておいた方がよい。

幕が上がれば、そこは別世界



12月、国立劇場で上演予定の歌舞伎公演「勸進帳」で弁慶役を演じる9世松本幸四郎。6世市川染五郎時代から歌舞伎のほか、ミュージカルや翻訳劇に出演するなど、幅の広い芸を見せる。長男は7世市川染五郎。

入門者にお薦めの演目 勸進帳

勸進帳ストーリー

兄の頼朝に疎まれて都落ちした義経一行が北陸は安宅の関に行く。弁慶ら家来衆を連れて義経は変装するが関守富樫左衛門に見抜かれてしまう。富樫は山伏一行と言いつける弁慶に様々な質問を浴びせ、弁慶は完璧に受け答え必死に主人を守る。その「男っぽさ」「一途さ」に富樫は感銘を受け、「武士の情け」で見つめぬふりで通行を許す。

勸進帳見どころ

弁慶、義経、富樫、3人がそれぞれの立場で相手を思いやるシーンが泣ける。弁慶の見得や六方（花道で手足を大きく動かし、足を踏みしめて引込む演技）、特に勸進帳ならではの飛びように駆け込む「飛び六方」など豪快かつ洗練を極めた荒事芸に圧倒される。白紙の巻紙を読み上げる有名な場面など、緊迫したシーンに注目してほしい。

歌舞伎はどこで観られるの？

【歌舞伎座】毎月興行

電話番号：03-3541-3131（代表） サイト：<http://www.kabuki-za.co.jp/>
※幕見席（500～1500円前後）からスタートするの一手。
4階という文字通りの天井桟敷だが、気軽に1幕だけからでも見られる。

【国立劇場】1、3、10～12月に定期公演。6、7月には鑑賞教室があり歌舞伎解説と1演目で初心者向き。

電話番号：03-3230-3000（チケットセンター） サイト：<http://www.ntj.jac.go.jp/>

【大阪松竹座】不定期

電話番号：06-6214-2211（代表） サイト：<http://www.shochiku.co.jp/play/shochikuza/gekijyo/>

その他：京都・南座、福岡・博多座、新橋演舞場、名古屋・御園座など

さらに深める参考情報…

【書籍】

『歌舞伎ワンダーランド』（びあmook）
『歌舞伎ハンドブック』（藤田 洋著、三省堂）
『歌舞伎にアクセス』（伊達なつめ著、淡交社）

【ウェブサイト】

日本俳優協会
<http://www.actors.or.jp/>
KABUKI for EVERYONE
<http://www.fix.co.jp/kabuki/kabuki-j.html>
松竹 歌舞伎・演劇サイト
<http://www.shochiku.co.jp/play/>
歌舞伎音楽の演奏家サイト
<http://www.kabuki-music.com/>
歌舞伎番付
http://www.um.u-tokyo.ac.jp/DM_CD/DM_CONT/BANDUKE/HOME.HTM
ジャパンナレッジ（会員制有料サイト）
<http://www.japanknowledge.com/>

案内人・文

渡辺幸裕（わたなべ ゆきひろ）
ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

【告知】

日本かぶれの会 超初心者向け歌舞伎を楽しむ会

「歌舞伎とは」という解説を聞き、その後、松本幸四郎主演、市川染五郎、中村芝雀共演の「勸進帳」を観劇します。終演後は劇場内レストランで、織田結二氏を囲み懇親会を行います。歌舞伎や「勸進帳」について、何でも質問できます。最初の一步を踏み出すため、どうぞお気軽にご参加ください。

日時：12月10日（金）19:00～22:00
会場：国立劇場 東京都千代田区
集町4-1 Tel 03-3265-7411（代表）
募集人数：30人
参加実費：8000円（観劇料、終演後の懇親会費など）
締め切り：11月19日（金）
応募方法：<http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato4/>で、お名前、性別、郵便番号、ご住所、電話番号、メールアドレスをご入力ください。
発表：当選者に直接ご連絡します。
問い合わせ先：info-nba@nikkeibp.co.jp

「勸進帳」は日本を知る宝庫

例えば12月に国立劇場で上演される「勸進帳」などは初心者にも十分楽しめる演目だ。歌舞伎を代表する作品の一つでもある。あらすじや見どころは上記を参照してほしい。

「危機に陥った際、上司と部下がとつさに取るべき行動」「平時に訓練を行っておくことがいかに緊急時に役立つか」「人を動かすというのはどういうことか」など、私たちのビジネスシーンにも関わる要素がストーリーの中にふんだんに含まれている。

こんな見方も決して邪道ではない。「勸進帳」で歌舞伎に入門し、格好よく見得を切ってほしい。▲

とはいえ、歌舞伎は娯楽である。自分が楽しみ方を知っていないと、とても人には語れない。まずは観劇してみよう。

劇場でもお年を召した女性客の多さに怯んではいけない。幕が上がら、照明が落ちれば自分の世界である。食欲にストーリー展開、役者の声、姿、顔、踊り、舞台装置、音楽等々すべてを楽しもう。